

在宅介護実態調査の集計結果

～第10期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和8年7月

＜長岡市＞

目次

第1章 在宅介護実態調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の概要.....	1
3 回収結果.....	1
4 報告書の見方.....	1
第2章 在宅介護実態調査の結果	2
1 A票調査結果.....	2
2 B票調査結果.....	7
第3章 調査結果からみる現状と傾向	11
1 集計分析について.....	11
2 要介護者の在宅生活の継続について.....	12
3 介護者の就労継続について.....	17
4 保険外の支援・サービスについて.....	20
5 世帯類型別の支援・サービスについて.....	22

第 1 章 在宅介護実態調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第 10 期介護保険事業計画の策定にあたって、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討するための基礎資料を得ることを目的とします。

2 調査の概要

調査内容	国が示した「在宅介護実態調査票」に基づき作成 A 票：ご本人向け 問 1 ～問 10 B 票：主な介護者向け 問 1～問 5
調査対象者	期間内に要支援・要介護認定の更新・区分変更申請に伴う認定調査を行った、居宅にお住まいの方（施設・居住系、入院を除く）
調査方法	認定調査員による聞き取り調査
調査の期間	令和 7 年 12 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

3 回収結果

回収数（人）	6 3 3
--------	-------

4 報告書の見方

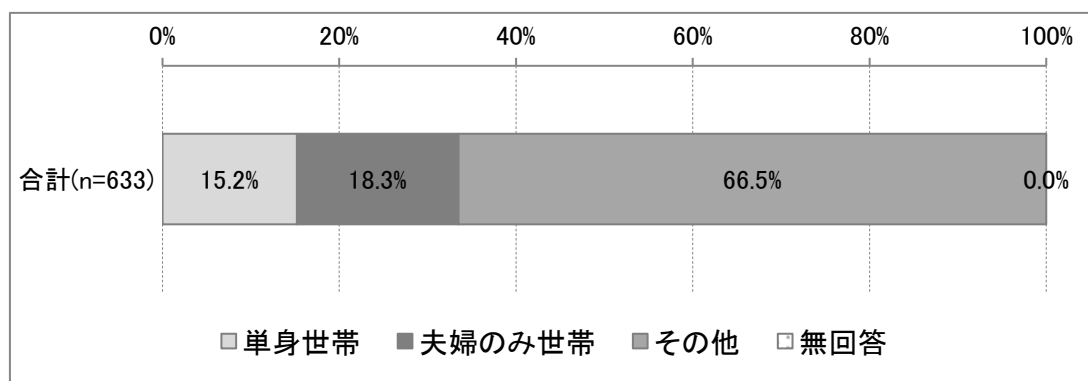
グラフの標記について	グラフの％表示は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計しても 100％にならない場合があります。 複数回答の項目は、回答の％の合計が 100％を超えています。 グラフ内及びグラフ付近にある「n＝***」は、パーセントを算出する母数を意味します。
------------	---

1 A票調査結果

(1) 世帯類型

世帯累計の割合をみると、「その他」が最も高く 66.5%となっています。

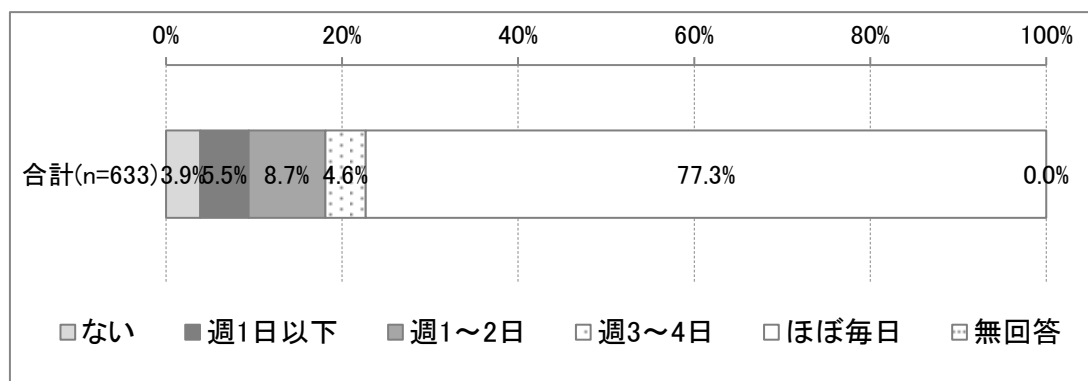
図表 2-1-1 世帯類型



(2) 介護の頻度の状況

家族等による介護の頻度の割合をみると、「ほぼ毎日」の割合が最も高く 77.3%となっています。次いで、「週1～2日 (8.7%)」、「週1日以下 (5.5%)」となっています。

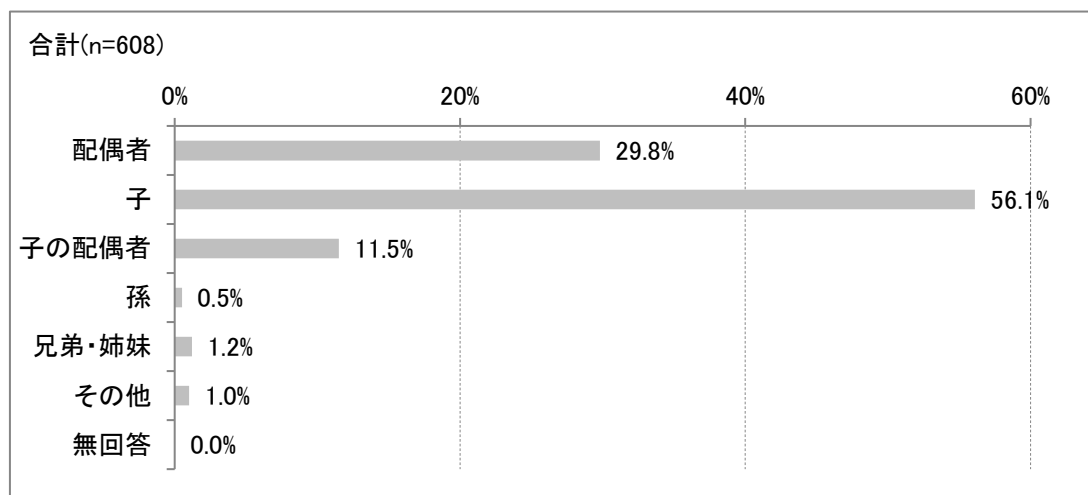
図表 2-1-2 家族等による介護の頻度



(3) 主な介護者

主な介護者の割合をみると、「子」の割合が最も高く 56.1%となっています。次いで、「配偶者（29.8%）」、「子の配偶者（11.5%）」となっています。

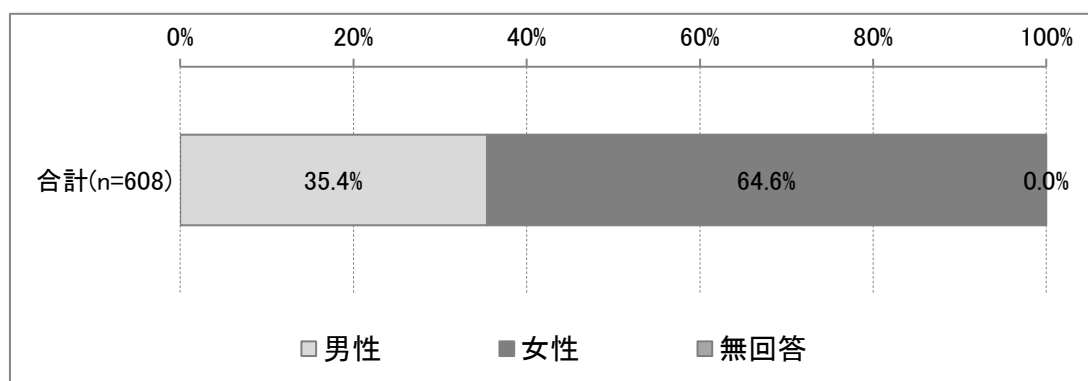
図表 2-1-3 主な介護者



(4) 主な介護者の性別

主な介護者の性別の割合をみると、「女性」の割合が最も高く 64.6%となっています。次いで、「男性（35.4%）」となっています。

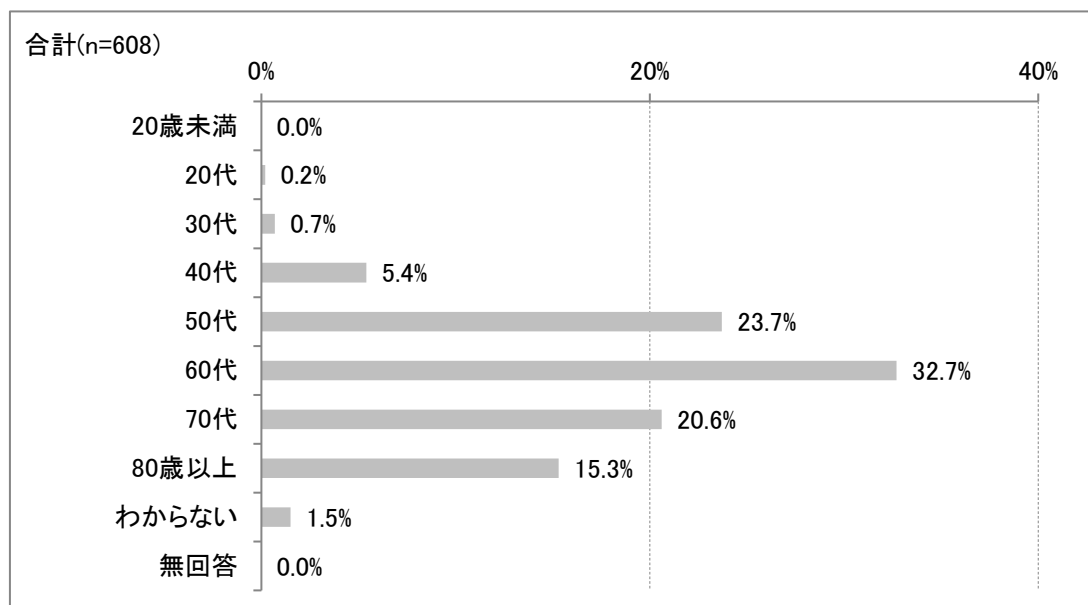
図表 2-1-4 主な介護者の性別



(5) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢の割合をみると、「60代」の割合が最も高く 32.7%となっています。次いで、「50代（23.7%）」、「70代（20.6%）」となっています。

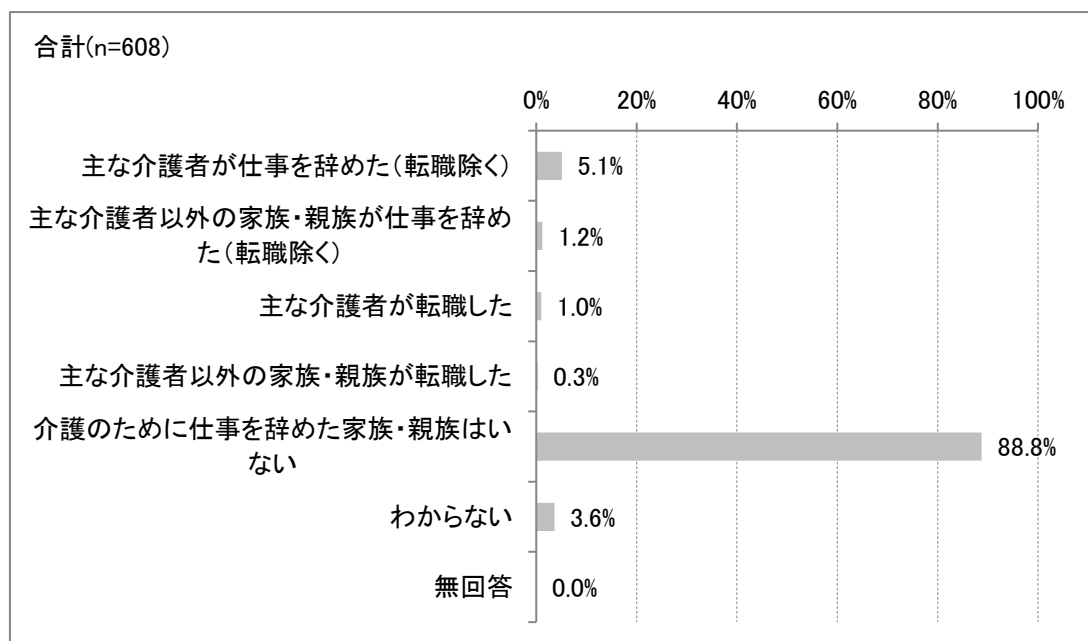
図表 2-1-5 主な介護者の年齢



(6) 介護を理由とした介護者の離職の有無

過去1年間に介護を理由に離職した介護者の有無の割合をみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 88.8%となっています。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（5.1%）」、「わからない（3.6%）」となっています。

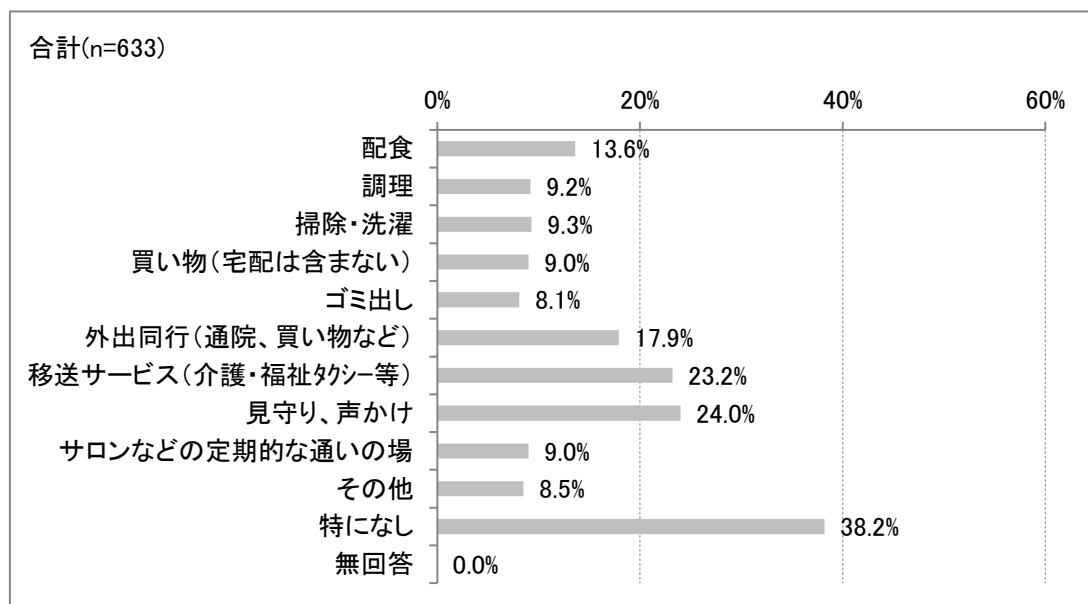
図表 2-1-6 介護を理由とした介護者の離職の有無



(7) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスの割合をみると、「見守り、声かけ」が24.0%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.2%となっています。

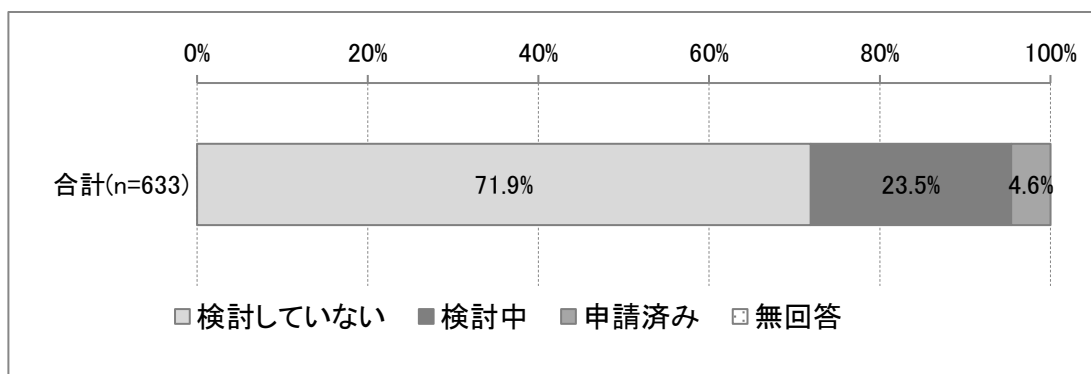
図表 2-1-7 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(8) 施設等への入所・入居の検討状況

現時点での施設等への入所・入居の検討状況の割合をみると、「検討していない」の割合が最も高く71.9%となっています。次いで、「検討中（23.5%)」、「申請済み（4.6%)」となっています。

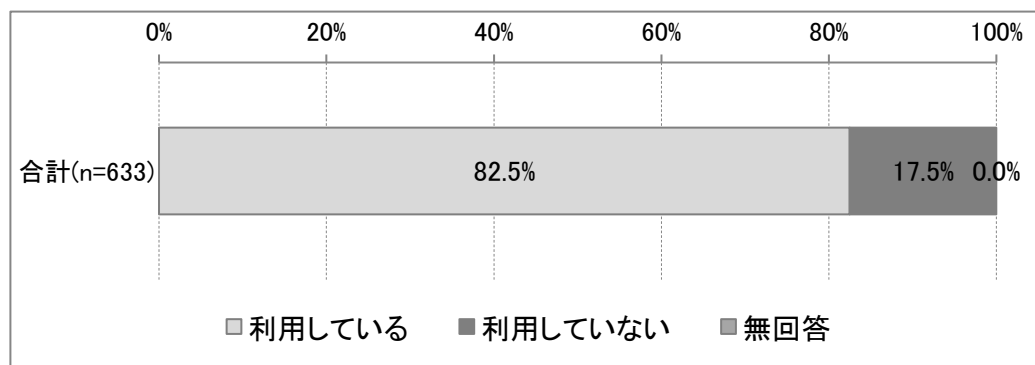
図表 2-1-8 施設等への入所・入居の検討状況



(9) 介護保険サービスの利用の有無

介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）利用の有無の割合をみると、「利用している」の割合が最も高く 82.5%で、「利用していない」が 17.5%となっています。

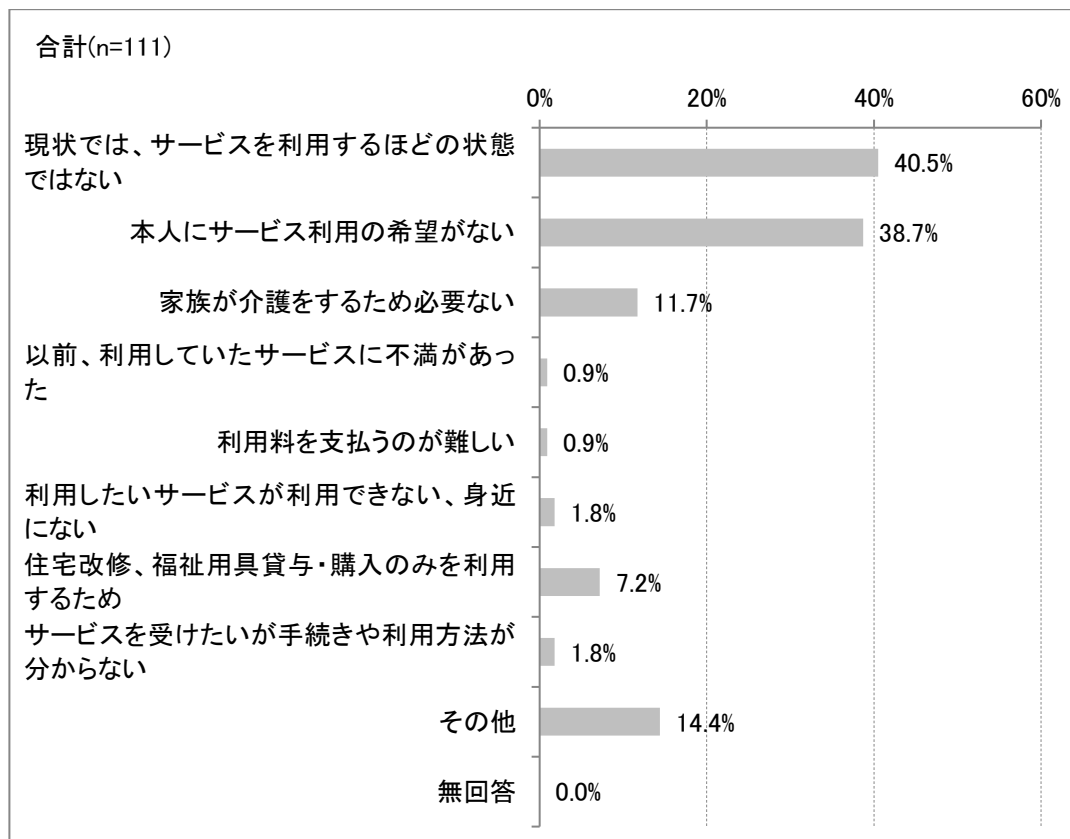
図表 2-1-9 介護保険サービスの利用の有無



(10) 介護保険サービスを利用していない理由

介護保険サービスを利用していない理由の割合をみると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く 40.5%となっています。次いで、「本人にサービス利用の希望がない（38.7%）」、「その他（14.4%）」となっています。

図表 2-1-10 介護保険サービスを利用していない理由

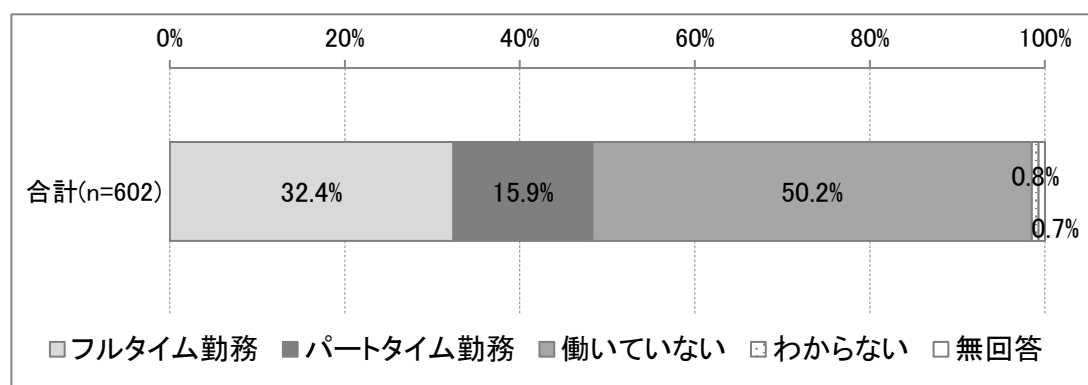


2 B票調査結果

(1) 主な介護者の勤務形態

主な介護者の現在の勤務形態の割合をみると、「働いていない」の割合が最も高く 50.2% となっています。次いで、「フルタイム勤務 (32.4%)」、「パートタイム勤務 (15.9%)」となっています。

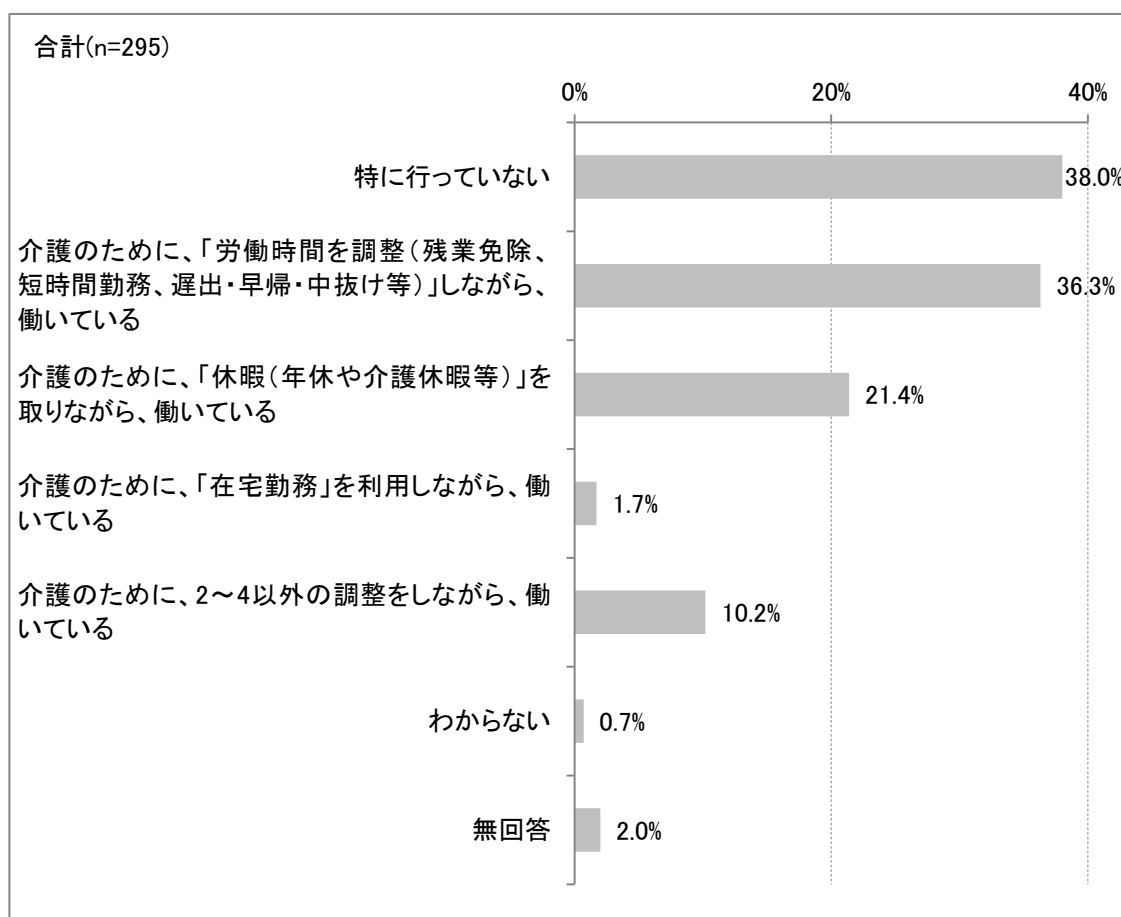
図表 2-2-1 主な介護者の勤務形態



(2) 主な介護者が行っている働き方の調整等

主な介護者が行っている働き方の調整等の割合をみると、「特に行っていない」の割合が最も高く 38.0%となっています。次いで、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている（36.3%）」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（21.4%）」となっています。

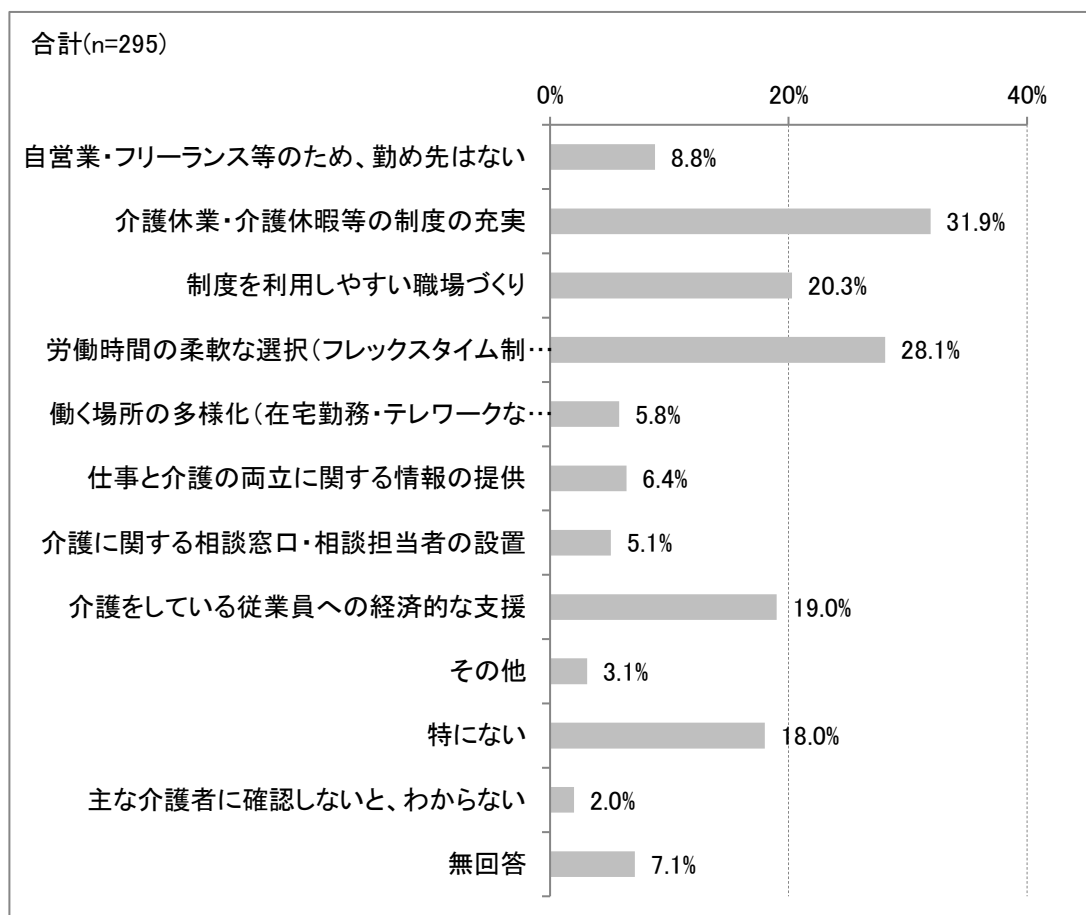
図表 2-2-2 主な介護者が行っている働き方の調整等



(3) 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援

仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援の割合をみると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高く 31.9%となっています。次いで、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）（28.1%）」、「制度を利用しやすい職場づくり（20.3%）」となっています。

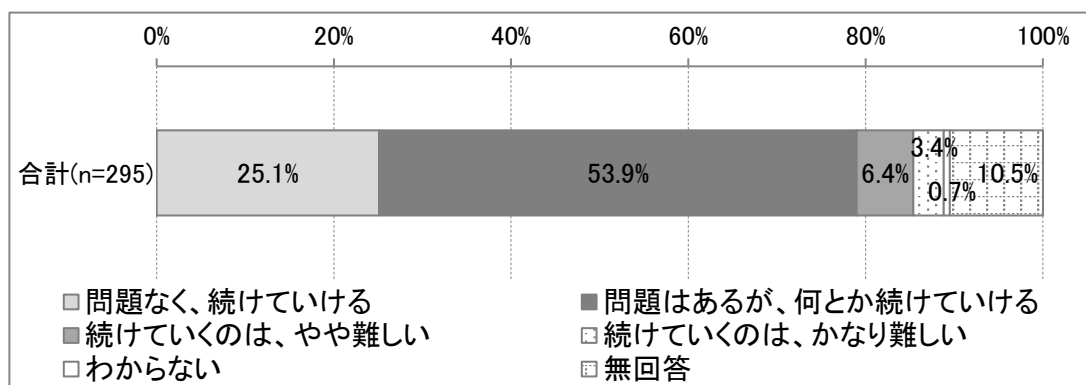
図表 2-2-3 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援



(4) 主な介護者の就労継続見込み

主な介護者における介護をしながらの今後の就労継続見込みの割合をみると、「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 53.9%となっています。次いで、「問題なく、続けていける (25.1%)」、「続けていくのは、やや難しい (6.4%)」となっています。

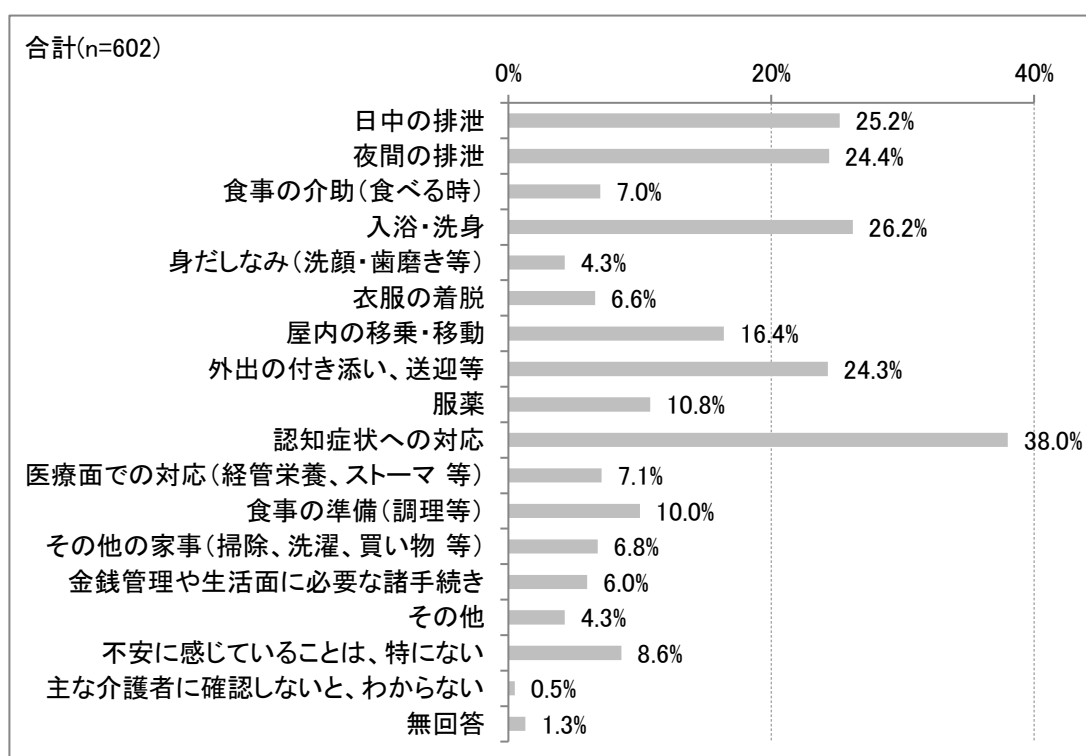
図表 2-2-4 主な介護者の就労継続見込み



(5) 主な介護者が不安に感じる介護等

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等の割合をみると、「認知症状への対応」の割合が最も高く 38.0%となっています。次いで、「入浴・洗身 (26.2%)」、「日中の排泄 (25.2%)」となっています。

図表 2-2-5 主な介護者が不安に感じる介護等



第3章 調査結果からみる現状と傾向

1 集計分析について

(1) 集計分析方法

集計分析については、国が提供する「在宅介護実態調査 自動集計分析ソフト」を活用しています。

(2) 用語の定義

【サービス利用の分析に用いた用語の定義】

用語	定義
未利用	「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみの利用者は、未利用として集計
訪問系	(介護予防)訪問介護、(介護予防)訪問入浴介護、(介護予防)訪問看護、(介護予防)訪問リハビリテーション、(介護予防)居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計
通所系	(介護予防)通所介護、(介護予防)通所リハビリテーション、(介護予防)認知症対応型通所介護を「通所系」として集計
短期系	(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護を「短期系」として集計
その他	小規模多機能 看護多機能 定期巡回 (介護予防)小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計 看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計 定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計

【サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義】

用語	定義
未利用	上表に同じ
訪問系のみ	上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計
訪問系を含む組み合わせ	上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計
通所系・短期系のみ	上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」の利用を集計

【施設等の検討の状況に係る用語の定義】

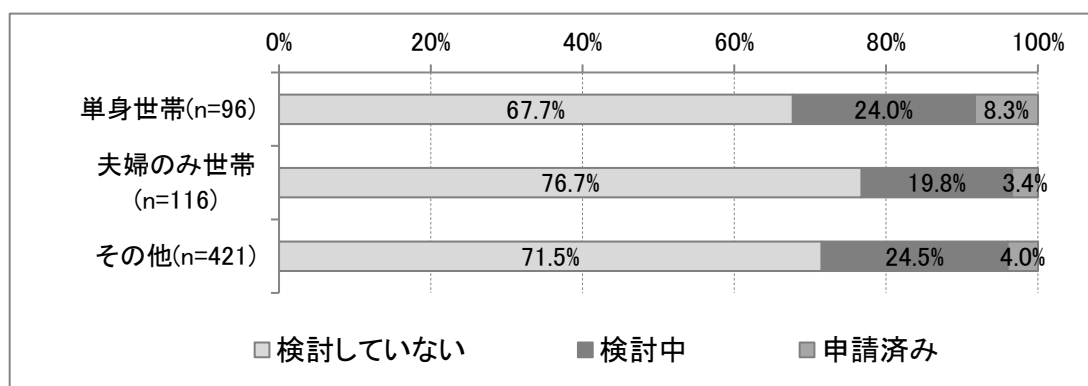
- 本集計・分析では、施設等検討の状況について、「入所・入居は検討していない（検討していない）」、「入所・入居を検討している（検討中）」、「すでに入所・入居申し込みをしている（申請済み）」の3つに分類して集計しています。
- なお、ここでの「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指すものであり、介護保険施設には限定していません。

2 要介護者の在宅生活の継続について

(1) 世帯類型別・施設等検討の状況

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」で「検討中」もしくは「申請済み」とする割合が32.3%となっており、「夫婦のみ世帯」、「その他世帯」に比べ高くなっています。

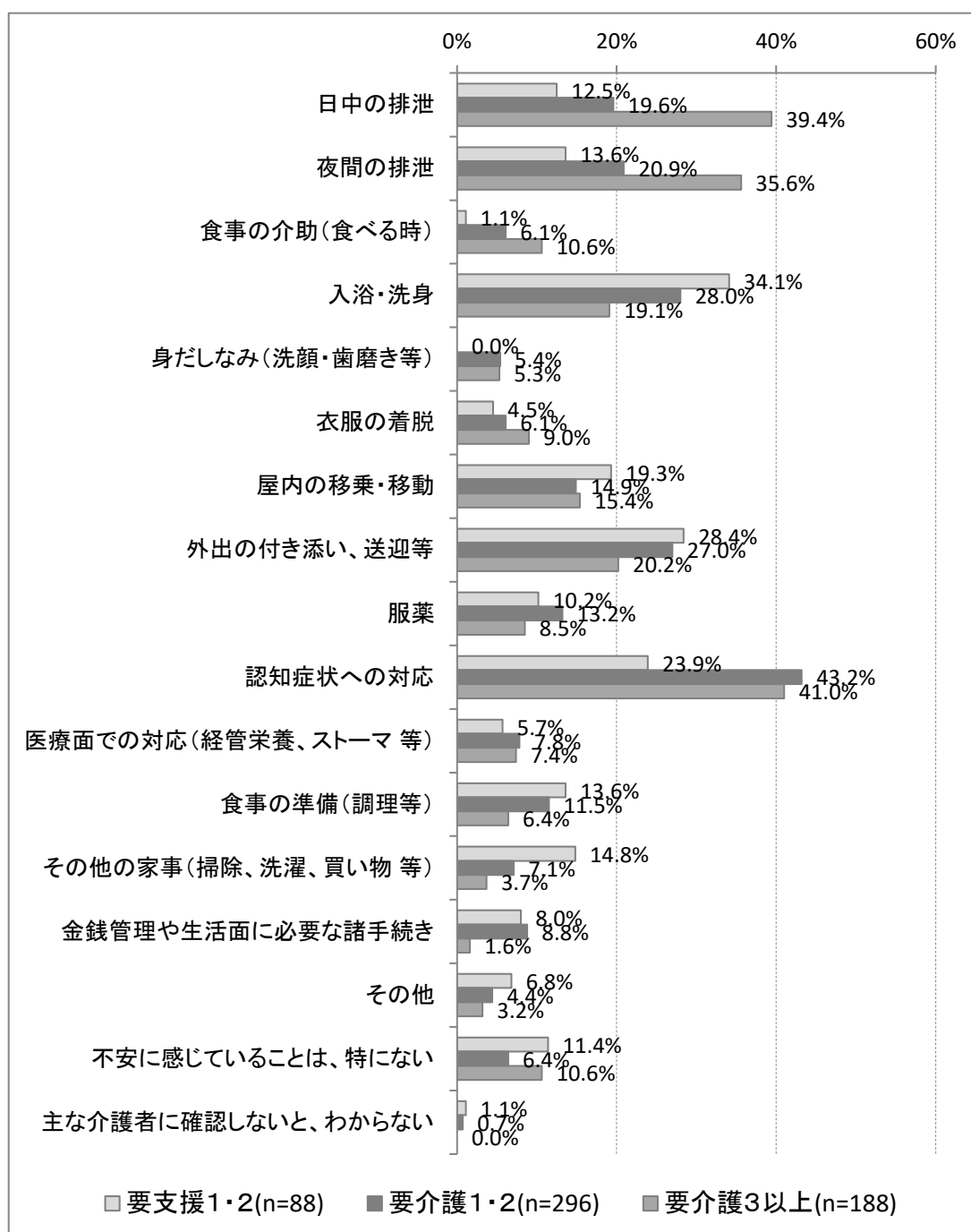
図表 3-2-1 世帯類型別・施設等検討の状況



(2) 要介護度別の介護者が不安に感じる介護

介護者が不安に感じる介護を介護度別にみると、「要支援１・２」では「入浴・洗身」が34.1%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が28.4%、「認知症状への対応」が23.9%となっています。「要介護１・２」では「認知症状への対応」が43.2%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が28.0%、「外出の付き添い、送迎等」が27.0%となっています。「要介護３以上」では「認知症状への対応」が41.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が39.4%、「夜間の排泄」が35.6%となっています。

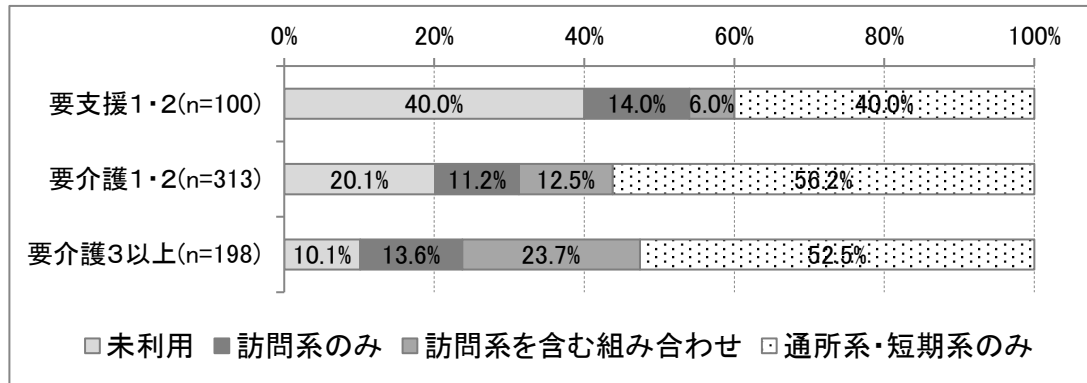
図表 3-2-2 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



(3) 要介護度別のサービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを介護度別にみると、「通所系・短期系のみ」が「要介護1・2」で56.2%、「要介護3以上」で52.5%と高くなっています。

図表 3-2-3 要介護度別・サービス利用の組み合わせ

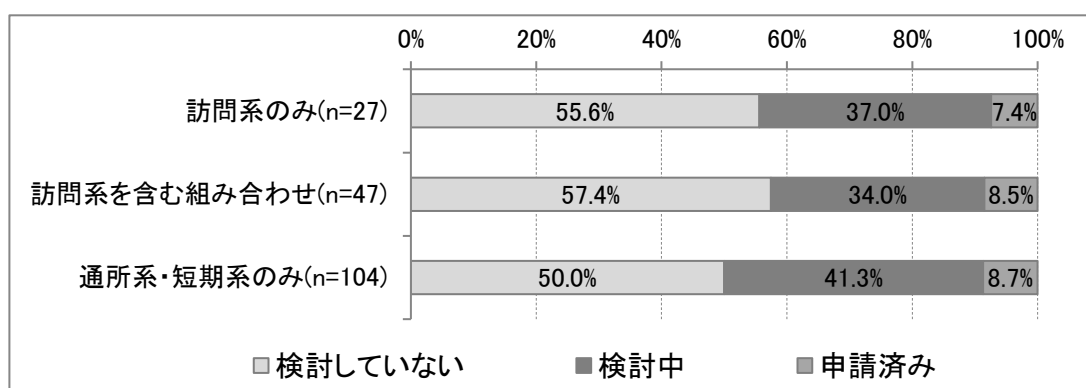


(4) サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）

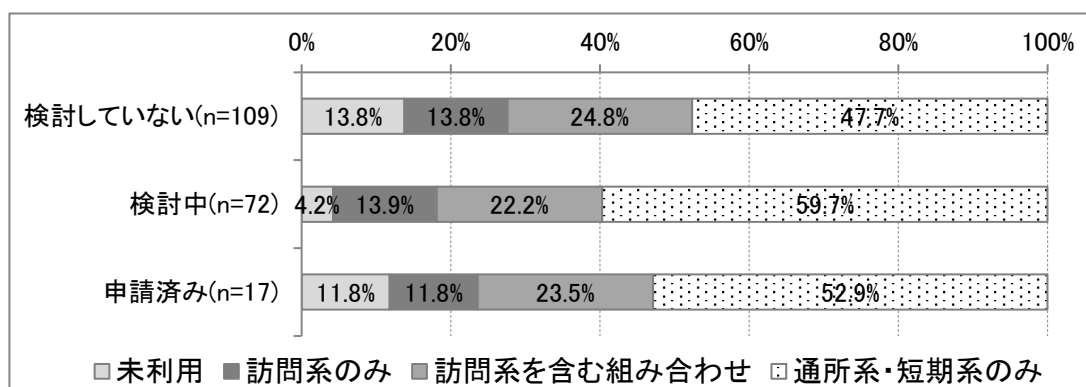
施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が55.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が37.0%、「申請済み」が7.4%となっています。

サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況別でみると、「検討中」では「通所系・短期系のみ」が59.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が22.2%、「訪問系のみ」が13.9%となっています。

図表 3-2-4-1 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



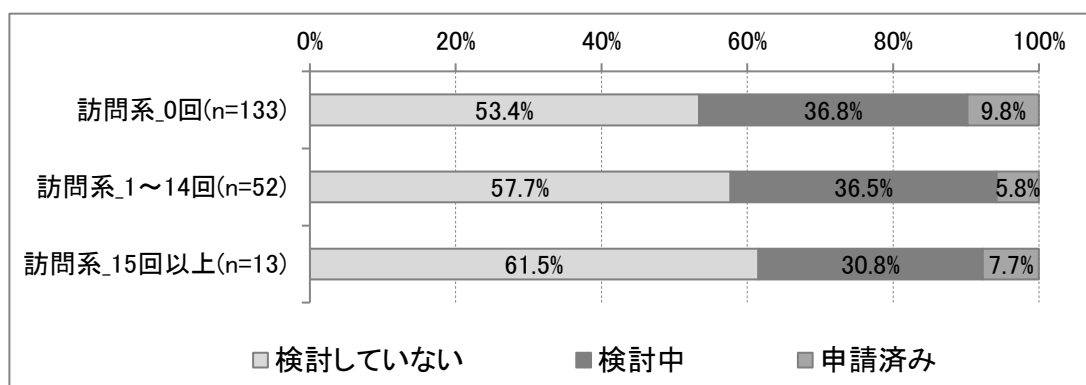
図表 3-2-4-2 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



(5) サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）

訪問系のサービス利用回数別に施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が53.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が36.8%、「申請済み」が9.8%となっています。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が57.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が36.5%、「申請済み」が5.8%となっています。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が61.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が30.8%、「申請済み」が7.7%となっています。

図表 3-2-5 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）

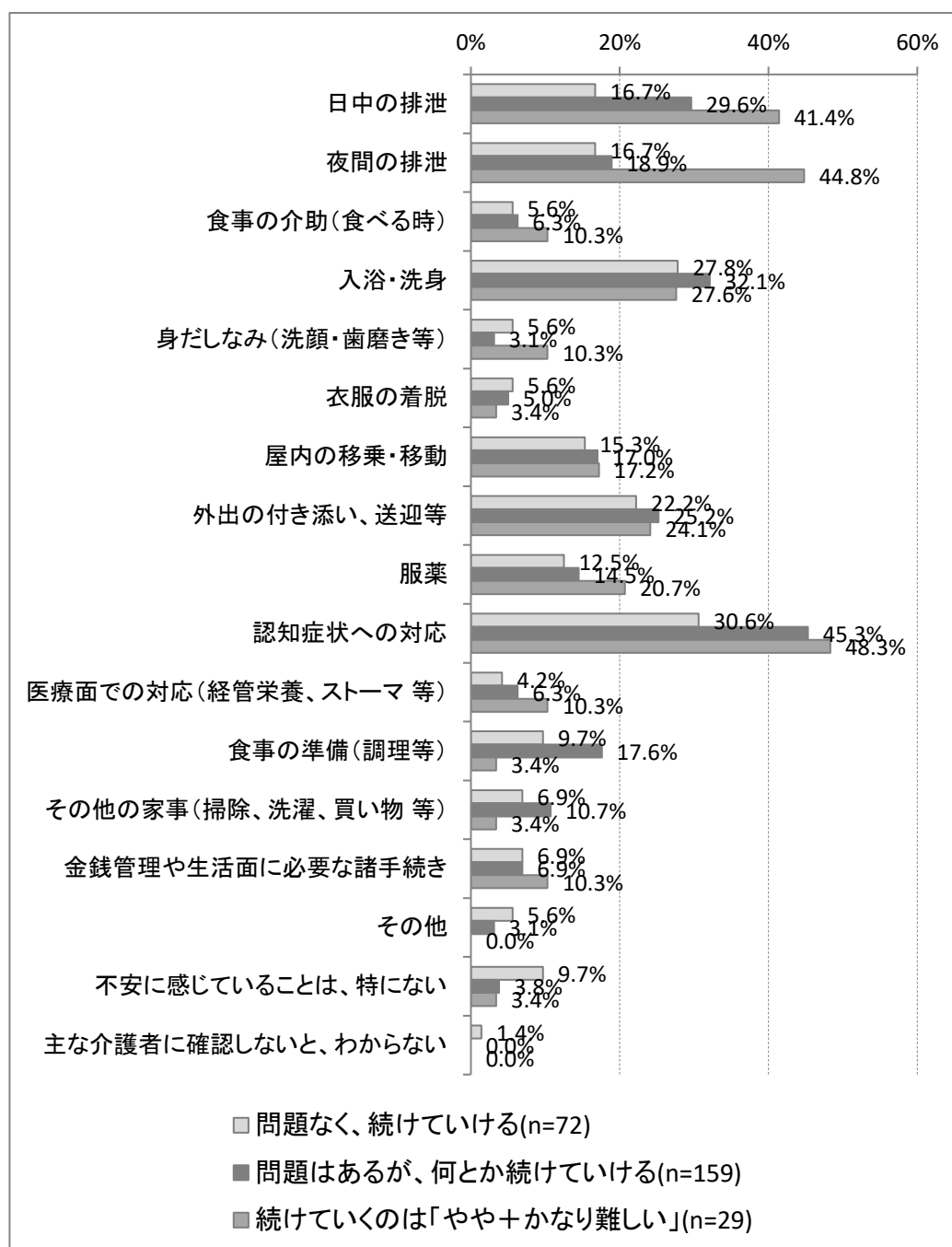


3. 介護者の就労継続について

(1) 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続見込み別にみると、「問題なく、続けていける」では「認知症状への対応」が30.6%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が27.8%、「外出の付き添い、送迎等」が22.2%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が45.3%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が32.1%、「日中の排泄」が29.6%となっています。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「認知症状への対応」が48.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が44.8%、「日中の排泄」が41.4%となっています。

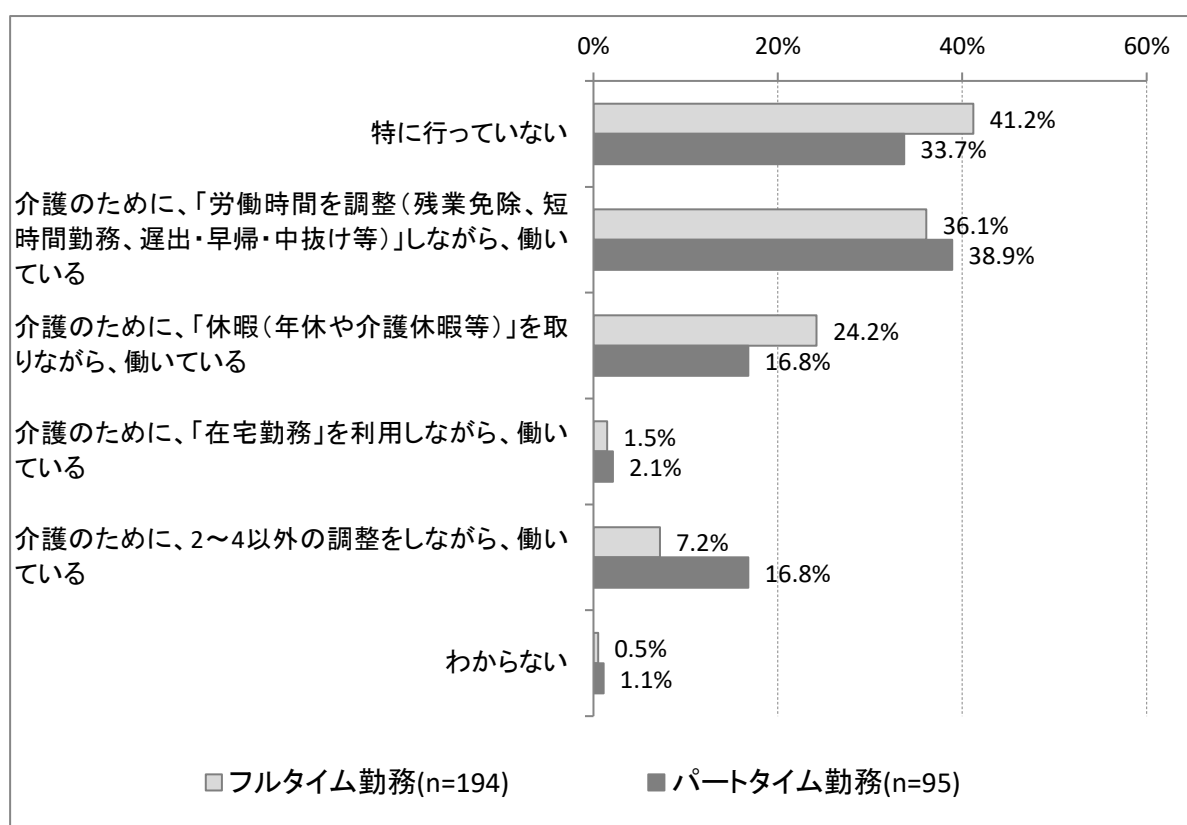
図表 3-3-1 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



(2) 就労状況別・介護のための働き方の調整

介護者の働き方の調整状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が41.2%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が36.1%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が24.2%となっています。「パートタイム勤務」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が38.9%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が33.7%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が16.8%となっています。

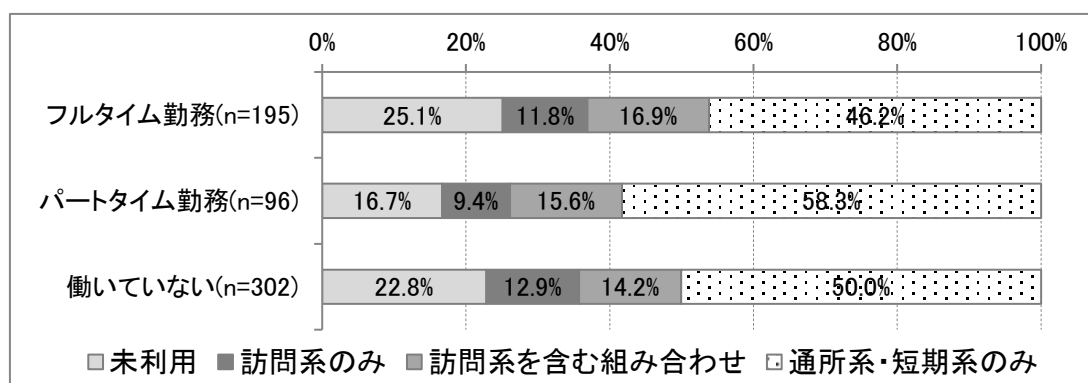
図表 3-3-2 就労状況別・介護のための働き方の調整



(3) 就労形態別・サービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が46.2%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.1%、「訪問系を含む組み合わせ」が16.9%となっています。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が58.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が16.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が15.6%となっています。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が22.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が14.2%となっています。

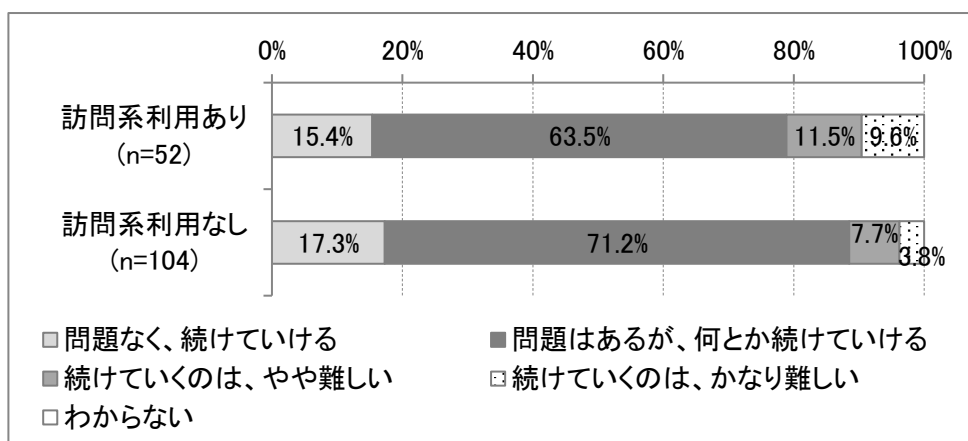
図表 3-3-3 就労形態別・サービス利用の組み合わせ



(4) サービス利用の有無別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が63.5%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が15.4%、「続けていくのは、やや難しい」が11.5%となっています。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が71.2%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が17.3%、「続けていくのは、やや難しい」が7.7%となっています。

図表 3-3-4 サービス利用の有無別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）

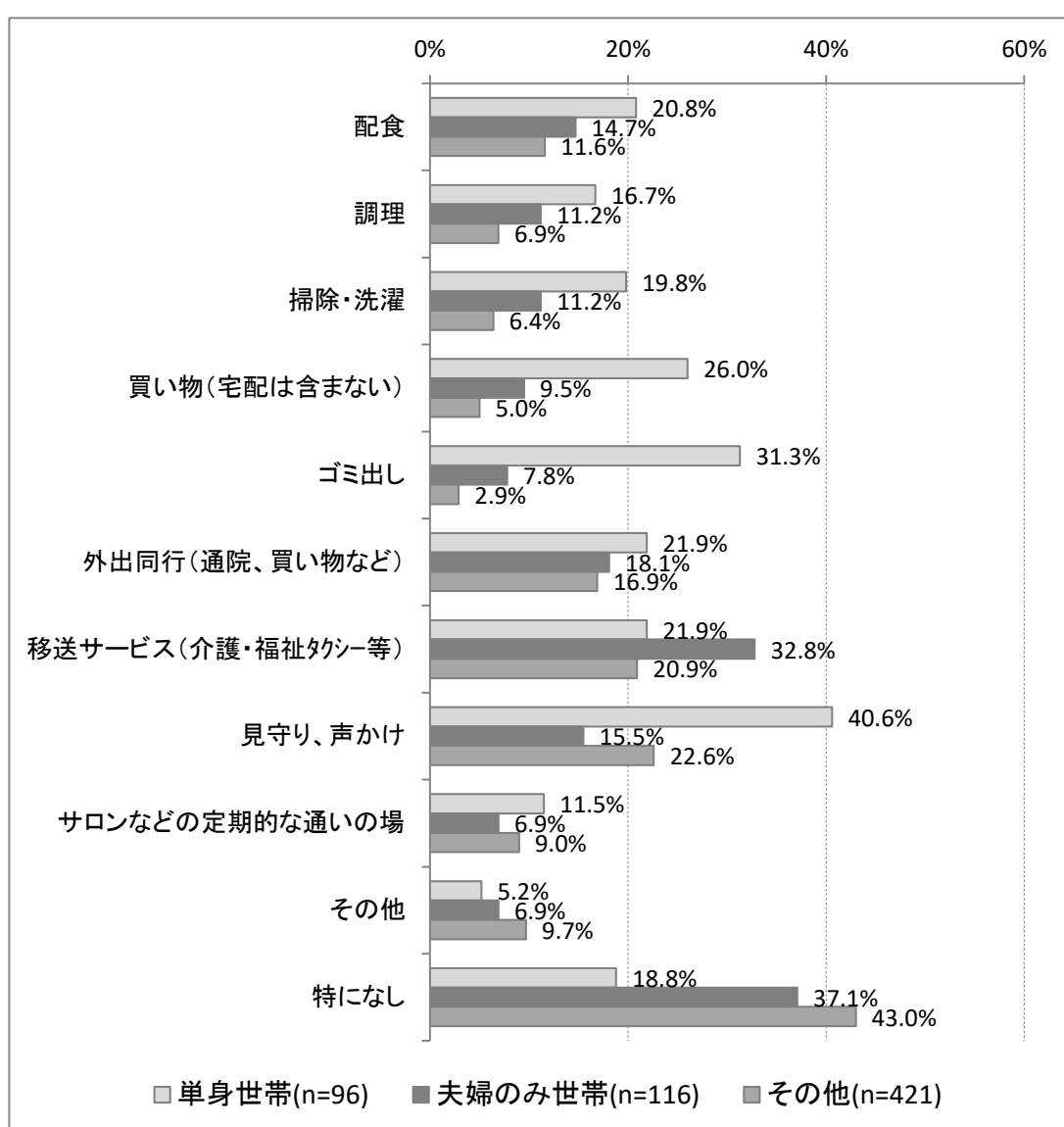


4. 保険外の支援・サービスについて

(1) 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを世帯類型別にみると、「単身世帯」では「見守り、声かけ」が40.6%と最も割合が高く、次いで「ゴミ出し」が31.3%、「買い物（宅配は含まない）」が26.0%となっています。「夫婦のみ世帯」では「特になし」が37.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が32.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が18.1%となっています。「その他」では「特になし」が43.0%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が22.6%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が20.9%となっています。

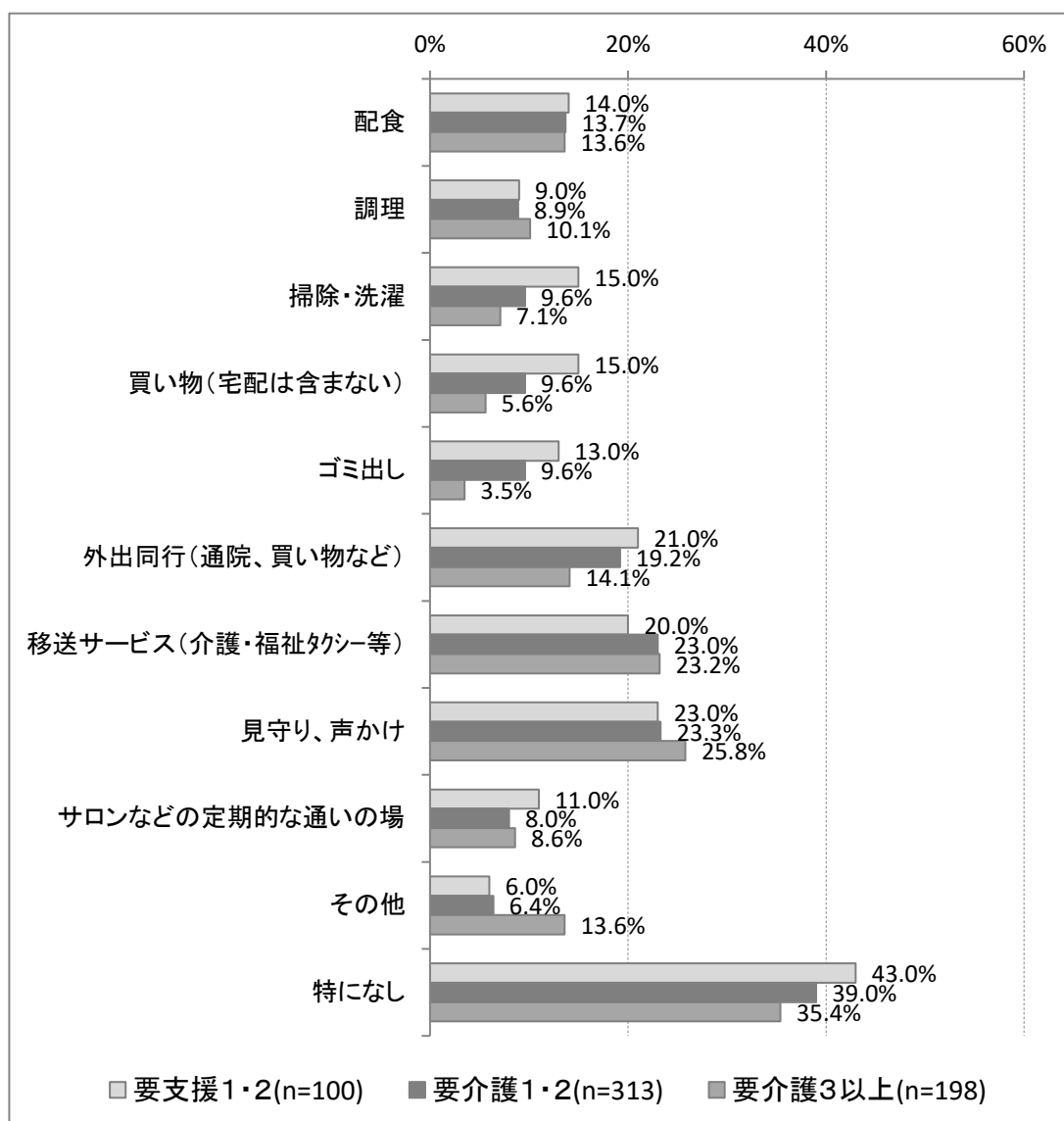
図表 3-4-1 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が43.0%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が23.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が21.0%となっています。「要介護1・2」では「特になし」が39.0%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が23.3%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.0%となっています。「要介護3以上」では「特になし」が35.4%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が25.8%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.2%となっています。

図表 3-4-2 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

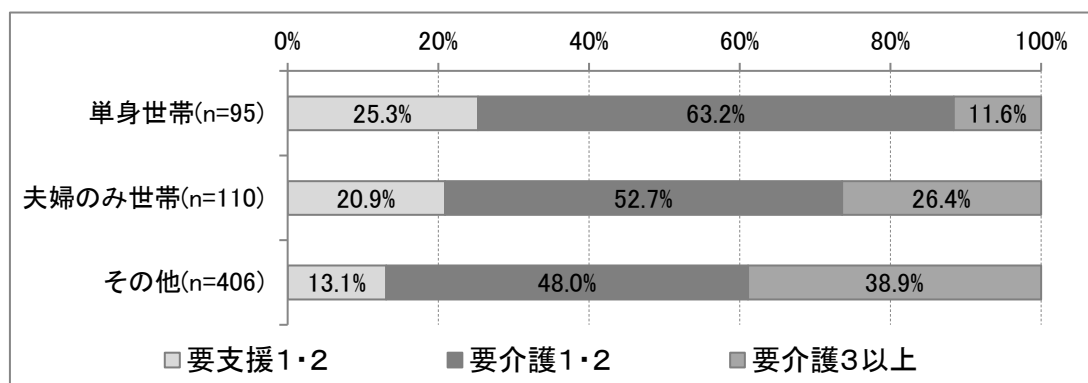


5. 世帯類型別の支援・サービスについて

(1) 世帯類型別・要介護度

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要介護１・２」が63.2%ともっとも割合が高く、次いで「要支援１・２」が25.3%、「要介護３以上」が11.6%となっています。「夫婦のみ世帯」では「要介護１・２」が52.7%ともっとも割合が高く、次いで「要介護３以上」が26.4%、「要支援１・２」が20.9%となっています。「その他」では「要介護１・２」が48.0%ともっとも割合が高く、次いで「要介護３以上」が38.9%、「要支援１・２」が13.1%となっています。

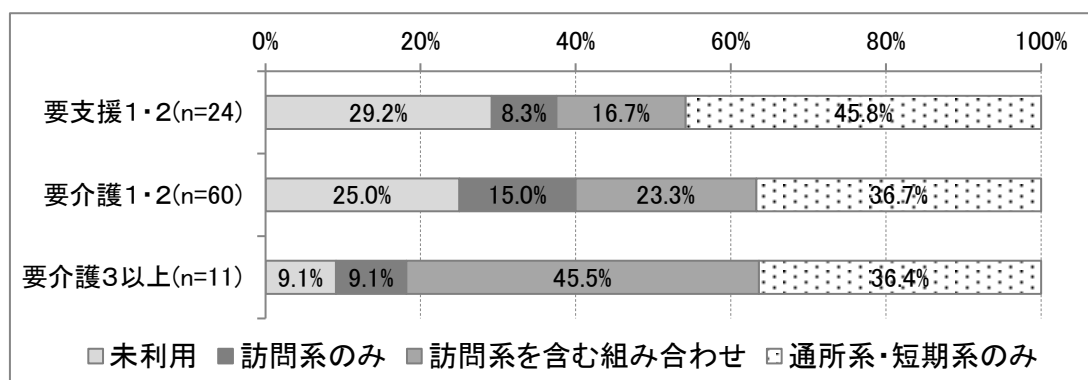
図表 3-5-1 世帯類型別・要介護度



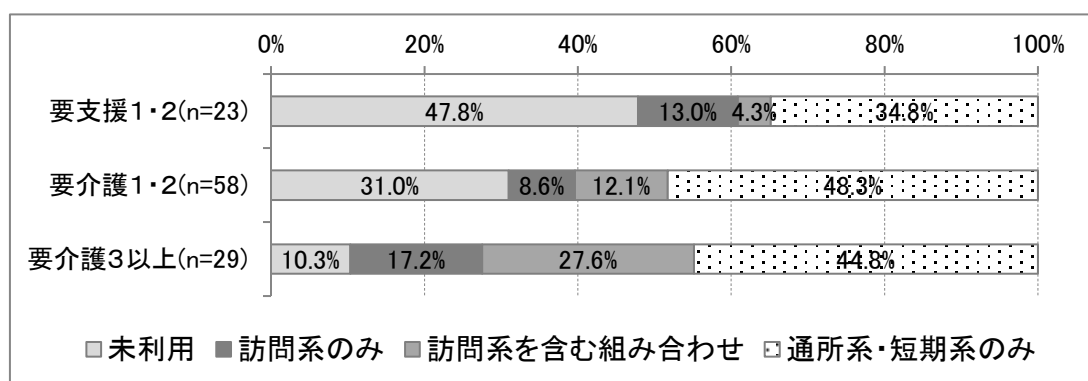
(2) 要介護度別・サービス利用の組み合わせ

世帯類型毎の介護度別にサービス利用状況をみると、単身世帯では、要支援1・2の段階で「未利用」の割合が比較的高く、サービス利用が進んでいない状況がみられる一方、要介護度の上昇に伴い訪問系サービスを含む利用が増加する傾向があります。夫婦のみ世帯では、「通所系・短期系のみ」の割合が各要介護度で高くなっておりその他世帯においても同様に通所系・短期系サービスの利用が中心となりますが、要介護度が高くなるにつれて訪問系サービスを組み合わせた利用が一定程度みられます。

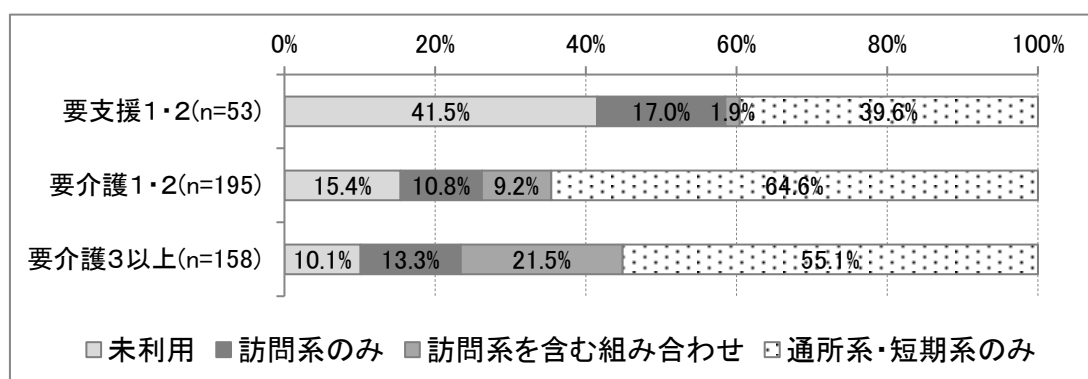
図表 3-5-2-1 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



図表 3-5-2-2 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



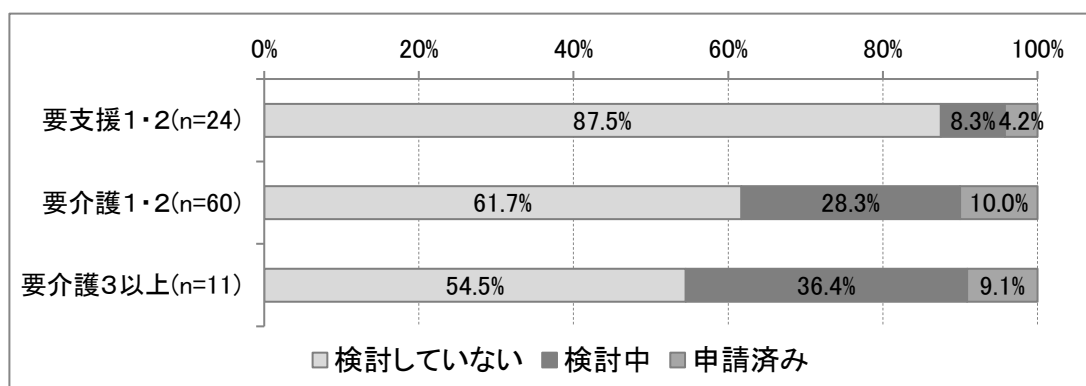
図表 3-5-2-3 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



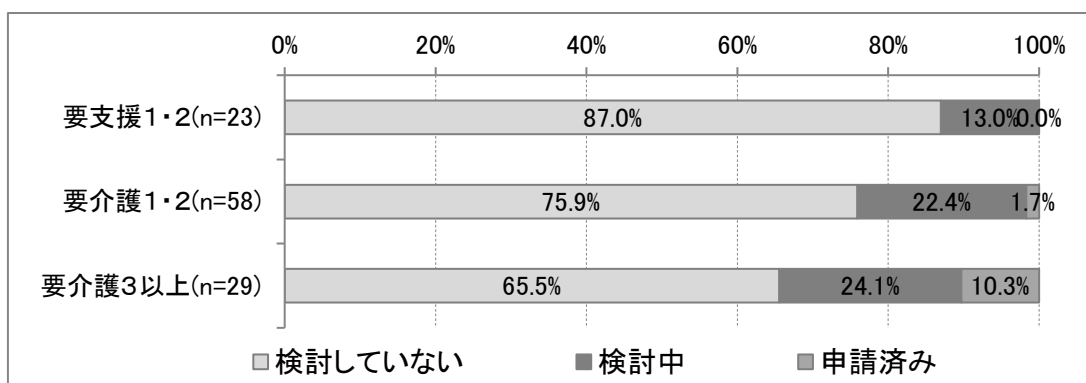
(3) 要介護度別・施設等検討の状況

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、単身世帯では、サービス利用回数が多くなるにつれて「検討していない」の割合が上昇する傾向があります。夫婦のみ世帯では、利用回数が増加しても「検討していない」と「検討中」の割合が拮抗しており、その他世帯においては、全体として「検討していない」の割合が比較的高いものの、利用回数の増加に伴い「検討中」の割合が一定程度みられます。

図表 3-5-3-1 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



図表 3-5-3-2 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



図表 3-5-3-3 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）

